

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 6名回答、回答率 100%

保護者様： 25名回答、回答率 93%

職員の意見

○環境・体制整備

勉強するエリアと遊ぶエリアをすみわけするなどして、安全に身体を動かして遊べるようスペースを工夫して使用している。玄関には段差があるが、介助が必要な児童が利用する際には職員を配置し、安全確保に努めている。トイレには手すりやスロープを整備している。職員数については適切であるが、運転できる職員は限られており、保護者の方のご要望全てにお答えすることは難しいが、自主入退室や保護者送迎のお願いや、近隣教室との連携により無理のない送迎体制を組むことはできている。

○業務改善

支援前のミーティングは毎日行っている。また、定期的に心理士を交えてお子様の支援について話し合う機会を作っている。職員の資質向上のため、階層別に研修計画を立て実施している。年1回保護者の方に事業所評価をしていただき、改善点に関して話し合いを行い、信頼して頂ける事業所作りを目指している。

○適切な支援の提供

半年以内に1度、個別支援計画の面談を行ない、保護者の方や利用者の意見を聞き、目標立てを行なっている。訓練室内に児童毎の個人目標カードを貼り、児童と職員で共通認識をもち、日々の目標達成にむけた支援を行っている。

療育活動は年間の計画を立て、毎月違うテーマを設けて支援を行なっている。長期休みや祝日には、普段行うことが難しい買い物学習や工作活動を行い、楽しみながら成長につなげられるように工夫している。これまで取り組んだことがない新しい活動プログラムを引き続き検討していきたい。

○関係機関や保護者との連携

送迎時に丁寧にフィードバックを行っている。児童単独で入退室している場合は、連絡帳での細やかな情報共有などにより、情報共有漏れが内容に努めている。また、関係機関については、地域の放課後等デイサービス連絡会に定期的な参加、学校見学への参加など、積極的に取り組んでいる。

○保護者への説明責任等

毎月の活動については、ニュースレターを毎月発行して周知している。契約時には契約内容の他、教室の特徴や方針等の説明を丁寧に行い、利用開始前後におけるギャップがないように努めている。

保護者の方から育児に関するご相談頂くことも多く、教室で対応している方法をお伝えしたり、社内心理士の意見を踏まえた助言を行うことができている。

○非常時等の対応

月1回避難訓練を行ない、様々な災害を想定して実施している。また、虐待防止の教室研修を定期的に実施し、適切な支援とは何かについて考え、自分自身の支援を振り返り、適切な支援ができるようにしている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

活動スペースについては、基準は満たしているものの、少し狭いと感じている保護者の方が多く、公園など広いスペースに遊びに行くことができたらいいのご意見を頂いた。職員の専門性については、フィードバック内容に職員による差があることから、物足りないと思っていらっしゃる方もいるため、職員個々の専門性を高めていくための取り組みを検討する必要がある。

○適切な支援の提供

個別支援計画の目標や月間の活動プログラムにおいては、8割以上の保護者の方に満足頂くことができた。障害のない子どもたちとの交流については公園に出掛ける活動等の際に接する事が出来ているが、少ないと感じている。

○保護者への説明等

日々の記録についてWeb上で見られるツールが欲しいのご意見や、電話以外の連絡ツールの活用が不十分であることがアンケートにて抽出されたため、メールアドレスの再周知を行っていきたい。支援内容や利用者負担額についての説明においては9割上の保護者の方から評価を頂くことができた。

○非常時等の対応

月1回避難訓練を行なっていることや緊急時のマニュアルがある事等については多くの方に周知することができているが、周知の内容や頻度について見直し、全ての利用者に漏れなく情報共有できる仕組みを構築していきたい。

○満足度

児童が楽しく通所することができているか、事業所の支援に満足しているかについては、多くの方からよい評価をいただくことができた。様々なご意見を改善につなげることで、更なる満足度の向上に努めていきたい。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・課外活動等を通して地域とのつながりを更に強化していく。
- ・新規職員の得意分野を活かした活動プログラムを実施し、より多様な支援を行っていく。
- ・業務前ミーティングだけでなく、送迎後に当日の様子を報告する等して、職員間の情報共有に務める。長期休みのご利用日程等、保護者様との情報共有に関しても密に行っていく。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・課外活動については、主に祝日や長期休み等を活用して、積極的に取り組むことができた。買い物学習では地域の商店街や店舗を訪れ、地域との交流も行うことができた。
- ・活動プログラムについては、職員間でアイデアを出し合い、外出先のバリエーションを増やしたり、内容を充実させることができた。
- ・職員間の情報共有についてはサービス提供時間の前後の時間を活用して密に行うことができた。保護者への情報共有については、職員によってフィードバック内容に差があることから、職員の専門性やスキルの向上は課題として残る。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・法人内の心理士に定期的に支援に関する助言や指導をうけ日々の支援に反映したり、個別支援計画の内容をチェックしてもらうことで、専門的な視点を取り入れ、満足度の高い支援につなげることができている。
- ・祝日や長期休みを活用して、季節行事を取り入れた活動や課外活動、調理活動などのプログラムも積極的に取り入れることで、楽しく通所していただく事が出来ている。
- ・所属職員の年齢やキャリアが異なることから、様々な視点で日々の支援を振り返ったり、活動プログラムの検討を行うことができています。

○改善点

- ・フィードバック内容を見直し、全職員が均一に保護者への情報共有を行えるように取り組んでいく。
- ・職員個々の専門性を高めていけるように教室内研修に取り組む。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・通所している児童や保護者のニーズにあわせて、都度、職員間で活動プログラムの振り返りや見直しを行いながら、ニーズにあった療育を提供しより満足度の高い事業所運営を目指す。
- ・学校や地域との更なる連携強化により、地域に開かれた教室づくりを行っていく。
- ・職員一人ひとりが専門性を高めていけるよう、教室内での研修やミーティングを通して常に向上心をもって支援業務にあたることのできるような教室風土を作っていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・法人内他教室の活動プログラム実施例や、地域イベントや店舗などの情報収集を行い、職員間で活動内容を検討し、バリエーションに富んだ活動プログラムを展開する。
- ・ブログ作成担当者やテーマを決め、毎月の更新を行っていくことで、事業所における取り組みを保護者や外部の方に積極的に周知していく。
- ・送迎時のフィードバック内容や方法に関する教室内研修を実施する。